



経済日誌

2025年3月15日～2025年4月14日の主な出来事



熊本

3.18 県内地価、8年連続上昇

国土交通省が18日発表した2025年1月1日時点の熊本県内の公示地価は、全用途平均で前年比3.6%上昇した。プラスは8年連続。上げ幅は前年の2.8%を上回った。工業地では大津町が33.3%上昇し、全国1位の伸び率だった。全用途の全国平均は2.7%上昇し、4年連続のプラスだった。

3.25 県、サイエンスパーク推進ビジョンを公表

熊本県は25日、TSMCの菊陽町進出を踏まえて県内に半導体関連の企業や研究機関を集積させる「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」を発表した。工業団地セミコンテクノパーク近隣エリアを中核拠点とする「分散型サイエンスパーク」を目指す。

3.26 TSMC稼働後、PFAS濃度上昇

熊本県は26日、TSMCの熊本第1工場で量産が始まってから初めて実施した水質調査の結果を公表した。工場で使用している有機フッ素化合物（PFAS）2種類の濃度が、熊本北部浄化センターでの排水処理後に放流している熊本市北区の坪井川で稼働前と比べて高くなった。

3.28 熊本市電の満足度51%

熊本市交通局は28日、2024年度の市電に関する調査報告書を公表した。市電の満足度は51.3%と前年度より1.3ポイント低下した。半導体関連は8件減の15件となり、やや落ち着いた。一方、物流系は11件と過去最多だった。

3.31 肥薩線復旧で最終合意

2020年7月の熊本豪雨災害で被災して運休が続くJR肥薩線の八代駅一人吉駅間について、熊本県とJR九州は31日、鉄道で再開することで最終合意した。2025年度から復旧に着手する。利用客が少ない3駅を廃止し、2033年度ごろ復旧させる。

4.1 県内景況感が3期連続悪化 日銀短観

日銀熊本支店が1日発表した3月の県内の企業短期経済観測調査（短観）は、全産業の景況判断指数（DI）がプラス20で、2024年12月の前回調査から2ポイント下がった。悪化は3期連続。製造業が前回から横ばいのプラス10、非製造業は3ポイント低下のプラス26だった。

4.1 熊本環状連絡道路を事業化

国土交通省は1日、中九州横断道路の一部で、熊本北IC-下硯川IC間の「熊本環状連絡道路」（約3.9キロ）の新規事業化を発表した。TSMCの菊陽町進出を受けて、熊本都市圏の物流機能強化と渋滞緩和を目指す。2025年度政府予算で関連費1億円を配分。全体事業費は約920億円を見込む。

4.8 県内企業立地件数、5年ぶり減少

熊本県が8日発表した2024年度の県内への誘致企業の立地協定締結件数は、前年度比25件減少した。半導体関連は8件減の15件となり、やや落ち着いた。一方、物流系は11件と過去最多だった。

以降は会員専用ページにて公開しております。
ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)